

【教育活動の名称】 令和6年度近江八幡市放課後子ども教室 寺子屋プラス

【副題】 五月放課後子ども教室「五月っ子」

【学校名】 近江八幡市立桐原東小学校

1 本校の概要

本校は、約40年前に超マンモス校となった桐原小学校から分離してできた中規模校である。校区のほとんどは住宅団地であり、JR近江八幡駅に近いため、共稼ぎ率が高い。地域での見守りに対する期待が大きいこともあり地域関係諸機関による新興住宅団地住民の地域交流を積極的に実施してこられた背景をもつ。

地域関係諸機関と本校教育活動とのつながりは深く、毎月一回程度各機関の長と学校が懇談を持ち、教育活動への支援の在り方を話し合い、実施をしている。

2 取り組んだ内容

(1) 「寺子屋」と「寺子屋プラス」

「寺子屋」は、毎週1回（水曜日）地域施設で児童の学習補充に取り組んでいる。

「寺子屋プラス」は、毎月1回と長期休暇期間に取り組んでいる事業である。学習に加え、高齢者と軽スポーツ等で交流する取組である。交流の中で児童は、地域の良さや支えあいの心を学び、ふるさと桐原に愛着と誇りを持てるように仕向けたいと考え取り組んでいる。

「寺子屋」としては、開始から約1時間、宿題や自主学習に取り組む子どもたちを、支援者がサポートする。その後約1～2時間を「寺子屋プラス」として、ニュースポーツに取り組んだり、卓球やバドミントンをしたりしている。保護者のお迎えが来る時間までの、子どもたちの居場所づくりになる。

また、月に1回、高齢者のいきいき体操やダンス、高齢者遊び（ピンポン玉を紙コップでキャッチ）を一緒にやる。

(2) 目的

- ① 児童が安全に有意義に放課後を過ごすための居場所を作る。
- ② 児童の家庭学習の習慣をつける事と、地域との交流を図る。
- ③ 遊びを通じて仲間意識、相手を考えて行動できる力を自ら考えて実行できるように見守る。

3 活動の成果

回数を重ねるごとに、学年や男女関係なく遊んだり、時間を決めて遊んだりできるようになって、全員が元気いっぱい活動できた。また、高齢者の方々と遊んだり、話をしたりできるようになって、子どもたちが高齢者のいきいき体操を支援する場面や高齢者のゲームに興味を持ち、子どもが進んで高齢者の輪に入っていけるようになった。



初めて参加する子どもや幼児を迎え入れ、仲良く遊ぶことができた。自分たちで考えた遊びやマットの家づくりなど遊びの幅が広がっている。高齢者サロンの活動に興味を持ち、子どもたちから「一緒にやりたい」と声が上がった。地域の子どもと大人、高齢者のつながりが深くなってきた。



宿題や遊びだけでなく、後始末までしっかりとやりきるように支援者が子どもたちに呼びかけてきた。後始末だけでなく、そうじを手伝う子どもが増えてきている。地域の施設を使用するにあたって、自分たちがきれいにして、次につなげるという気持ちが出てきたように思う。